

～ 子供に関わるすべての人へ～  
家庭教育ニュースレター

# 家族の絆

2018年秋 = Vol.55 =

## Contents .....

- 「考える力」の芽
- 「ワンオペ育児、もうひとりで悩まない！」
- 西宮市立図書館から本の紹介！
- 5つの実践目標リーコラム「お互いさまの関係づくり」
- にしのみや人権フォーラム「気づきでひろがるこころの輪！」講演会のご案内  
「思春期の危機を乗り越えるために」  
「笑顔で変わる前向き介護～介護の達人は人生の達人」



発行／西宮市教育委員会 問合せ先／社会教育課 TEL0798-35-3868

## 「考える力」の芽



大人の皆さんは、子供の「なぜ？」にしっかりと答えることができますか？  
未来を担う子供たちが、自ら学ぶ力をはぐくむために、必要なこととはどのようなことでしょうか。

今回は、前教育長 伊藤 博章さんに「『考える力』の芽」についてお話をいただきました。

子どもが学校で習う学習内容や授業時間を定めた学習指導要領は、ほぼ10年ごとに改訂されています。2020年から全面実施される小学校の学習指導要領の主な改善事項の1つが、小学校3・4年生に週1時間設けられる外国語活動と、5・6年生に設けられる週2時間の外国語科（英語）導入です。

前回の改訂においても授業時数や学習内容が増加したため、学校はこれまでも行事を精選したり、モジュール学習による短時間学習をしたりして、授業時数の確保に努めてきました。さらに、今回の改訂では子どもの「主体的・協働的な学び」（いわゆるアクティブ・ラーニング）という具体的な学びの姿まで言及されているだけでなく、外国語教育以外にも情報活用能力（プログラミング教育）の充実も求められており、各学校はどうしたら時間が生み出せるのか、四苦八苦しているのが現状です。

そのことを大学の授業で取り上げると、次のようなことを書いた学生がいました。

『そもそもの問題は授業時数ではないのではないかと考えました。（中略）大人は日数・時間を増やそうと考えますが、なぜ大人は授業時数を増やしたいのでしょうか。それは日本の教育が、“子供が自主的に勉強する自習力”をつけることに自信がないからです。（後略）』

この考えが正しいかどうかは別にして、このような考え方がこのからの未来を切り拓くために必要な“批

判的思考（クリティカルシンキング）”であると思います。このような思考は慣れないと難しいと言われていますが、子どもが小さかった頃のことを思い出して下さい。何事にも「なぜ？」「どうして？」と聞いてきて、大人を困らせたことがありませんでしたか。心理学では“質問期”と呼ぶそうで、知的好奇心が最も伸びる時期であり、大人が子どもの質問に上手に対応することで、子どもの興味・関心が広まります。つまり、大人になって必要とされる「考える力」の芽は、そこにあると思うのです。

新しい学習指導要領のキーワードは“社会に開かれた教育課程”であり、保護者や地域の方々にも一緒に学校教育に携わってもらいたいという思いが込められています。これから親となる若者は、体系的な思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力などを身につけようと頑張っています。私たちも学生に負けないように、子どもの「なぜ？」にしっかり応えて自分の「考える力」を養いながら、子どもの逞しい成長を応援していきましょう。

いとう ひろあき

### 伊藤 博章

武庫川女子大学共通教育部教授・学校教育センター副センター長

1953年大阪生まれ。大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了後、数学科教諭として大阪府立高等学校・西宮市立高等学校で勤務。西宮市教育委員会学校教育部長、教育次長などを歴任し、平成25年4月に西宮市教育長に就任。平成29年4月から現職。



# 「ワンオペ育児、

## もうひとりで悩まない！」



「女性活躍」が進んだら、女性は幸せになるのでしょうか。現実には、多くを求められて、ますますヘトヘトになっているような気がします。すべての人が、育児で、仕事で、家事で、ヘトヘトにならない社会、若い世代が生きづらいと思わないでいられる社会をつくるために、ほんの少しでもアクションを起こしませんか？

今回は、流行語にもなった「ワンオペ育児」をテーマに、さまざまなメディアでご活躍されている、明治大学教授 藤田結子さんより寄稿いただきました。

2018年6月2日に西宮市男女共同参画センターウェブで開催された「2018年男女共同参画週間記念講演会」で講師を務められた藤田さんのお話をもとに、すべてを抱え込まない方法を一緒に考えましょう。

「ワンオペ育児」という言葉を聞いたことがありませんか。「ワンオペ育児」は、ブラック企業の「ワンオペ」（「ワンオペレーション＝1人作業」）が母親たちの家事育児などの労働とそっくりなことから、ネット上を中心に使われ始めました。

実は、現代日本で「当たり前」とされている育児スタイルは、普遍的なものではありません。高度経済成長期にサラリーマンが増え、その妻たちが専業主婦になりました。以前は自営業や農業が多く、親族や地域で子育てをしていたのが、母親1人で育児をするようになって、育児不安の問題がでてきました。最近では、母親たちが「今日もワンオペ育児でつらい」などとツイッターなどでつぶやくようになり、当事者たちの間で話されていた不安や孤独が、ネット上で見えるようになりました。そうして、「ワンオペ育児」という現代の母親たちの実情を表す言葉は、2017年度の流行語大賞にノミネートされたのです。

### ★今の日本は母親の負担が重すぎる

「世界共通で母親1人で育児をしているはず」と思い込んでいませんか。実のところ、母親1人で育児している先進国は珍しいのです。アメリカや北欧では、父親が子育てによく関わっていて、1日3時間程度かそれ以上、家事・育児をしています。このような状況を聞くと、欧米は日本と文化が違うからで、お隣のアジアの国々は似たような状況なのではないか、と思うかもしれません。

ところが、父親の育児参加がとても少なく、母親がひとりで育児をする国は、今日のアジアでもめずらしいのです。たとえば、中国では父親も祖父母も一緒に子育てをしています。タイでは父親が日常的に子ども

の世話をしている、親族も育児をサポートします。シンガポールや香港では、働く母親の多くがシッターやハウスキーパーに子育てを手伝ってもらっています。

家事についても日本では女性に求める家事のレベルがとても高いといえます。ある調査によると、イギリスの母親の大半は夕食に繰り返し同じ料理を出しているそうです。献立は主に9種類。「ピザ」「ミートソーススパゲティ」「ソーセージとポテト」「カレー」など簡単なもので、スーパーの総菜や「レンジでチン」料理も含まれます。アジアでも、台湾や香港では屋台の持ち帰りや外食が多いようです。

日本のように、女性が毎食「愛情を込めて手作り」「一汁三菜」ということをやっている国の方が、実は世界では珍しいのです。国によってはランチバッグにりんごとクッキーをいれて「ハイ、できあがり」です。

そうすると、母親の家事、食事作りは日本のすばらしい伝統や文化であって、子どものしつけや学力向上のために必要なものだ、と思うかもしれません。しかし、平均寿命は外食の多い香港のほうが日本より長く、経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査では、シンガポールや香港のほうが日本よりも学力順位が高いことが分かっています。手作りの食事と子どもの学力向上に相関があるというエビデンスは不十分。だったら無理して手の込んだ朝食や夕食を出さなくてもよいのではないのでしょうか。

### ★もうひとりで悩まない！

本当は、個人の努力にまかせるよりも、子育てしやすい社会に変わることが一番です。といっても、社会が変わるまでに待っていては、自分の子供はどんどん育って行ってしまいます。重い負担を減らすために、

自分でできることをやってみましょう。

○誰かに頼る——夫やおじいちゃんおばあちゃん、親戚、ママ友、ベビーシッターなど誰でもいいから頼りましょう。みんなで育児するほうが当たり前なのです。

○家事のレベルを下げてみる——日本で女性に求める家事レベルは外国と比べて高すぎます。完璧を求めてイライラし子供に当たるより、手抜きのほうがずっといい。

○近所でネットワークをつくる——孤独は楽しいはずの育児を辛いものにします。ママ友をつくってみませんか。育児サークルや児童館を利用してみましょう。

つぎに、パパもできることがたくさんあります。父親育児は子供に多くのいい影響があります(表1)。

○ときどき早く帰宅して育児をしましょう——ある程度自分で働き方を調整できる職場も増えています。普段から上司に育児の状況を話して、知っておいてもらいましょう。

○育休を取得する——次の子どもが生まれるときは短くてもいいから取得してみましょう。分担体制をつくるには最初が肝心です。

○家事のマネジメントを共有する——共働きであれば、パパもマネジメント意識を持つことが重要です。「指示待ち体制」をなくしましょう。妻に「お膳立て」をしてもらわずに、自分で最初から最後までやってみることで家事分担が進みます。

また、地域のシルバー人材センターやファミリーサポートを活用しましょう。お金に余裕があれば、子供

に手がかかる時期だけでも、民間業者のシッター、ハウスキーパー、宅配サービス利用しましょう。

世界標準でみれば、日本のお母さんたちはとてもレベルの高い育児や家事をしているのに、「自分はダメな母親だ」といって罪悪感を抱いている人が多いというおかしな状況です。自分は十分やっていると思ってください。そして、子供の世話は分担し、家事も今より手を抜いて、子育てを楽しみましょう。

(表1) 父親育児が子どもに与えるポジティブな影響

	父親の育児行動	子どもへの影響
未就学児	父親の育児参加が多い	・成人後に教育・経済的な業績が増える ・子どもの非行が減る ・3歳の時点で情緒的・社会的発達が良い
	父親との遊びが多い	・情緒性・社会性・自発性・独立意識が高い
	父親との関わりが多い	・友人ネットワークが広い
就学児	父親と接触時間が長い	・社会性が豊かになる ・自尊感情が高い
	父親が習い事に関心を持ち、サポートする	・子ども自身の習い事における能力感が高まる

(石井クンツ昌子『「育メン」現象の社会学』ミネルヴァ書房、2013を基に筆者作成)

ふじた ゆいこ  
**藤田 結子**

明治大商学部教授

明治大商学部教授。英ロンドン大学で博士号を取得。専門は社会学。日本や海外の文化、メディア、若者、ジェンダー分野のフィールド調査をしている。毎日新聞経済プレミアで「育児サバイバル」連載中。近著に『ワンオペ育児』（毎日新聞出版、2017年）、『ファッションで社会学する』（共編著、有斐閣、2017年）。



## 西宮市立図書館から本の紹介！



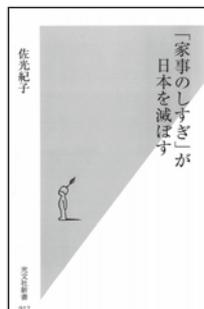
このコーナーでは、本を読んでみようかなと思ってもらえるよう、特集記事などの内容に関係のあるテーマの本を紹介しています。今回は中央図書館係長 松本 眞樹さんに「家事」に関連する本をご紹介します。

『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』 佐光 紀子 著 光文社

「外食やお惣菜も使うけれど、できれば食事は手作りがいい」「ほんとはもっと丁寧に掃除したいんだけど、なかなか時間がなくて…」そんな風に思っている女性は多いのではないのでしょうか。でもそれって日本独特の思い込みらしいのです。そんなことを多くの資料や国際比較などを交えて考察しているのが本書です。たとえば、朝ごはんは食べた方がいいけれど、温かいものを手作りでというのはイメージ操作されているとか、食器は毎食後洗う人が半数以上という日本の実情は、他国に比べると異常に多いのだとか。そして「きちんと」した家事をしなくては、という思い込みが日本の男性の家事分担率の低さを生む原因にもなっていると著者

は述べています。確かに、「手伝ってくれるのはうれしいけど、やり方が…」という声、よく聞きますよね。

この本を読んでいると、目からウロコな話がたくさんあります。堂々と(?)手抜き家事のできる私でもそう思うのですから、真面目に家事に取り組んでいる方が読めば納得のいかないこともあるかもしれません。長年の考え方はそう簡単に変わるものでもないでしょう。でも、あれもこれも「ちゃんと」しなきゃと思い詰める前に、もう少し気楽に家事と向き合ってみませんか？



思いやりのある西宮っ子を育てる

## 5つの実践目標 リレーコラム

平成23年に西宮市家庭教育振興市民会議が新たに提唱した家庭教育の「5つの実践目標」をテーマとして、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者などに自身の体験や思いを投稿していただくリレーコラム。

今号は、5つの実践目標の中から「見守ろう よその子 我が子 区別なく」をテーマに、「前西宮市PTA協議会会長の中野 睦子さん」にお話いただきました。

### 「5つの実践目標」

- ・育てよう 優しい心と がんばる力
- ・声かけよう おはよう ありがとう ごめんさい
- ・見守ろう よその子 我が子 区別なく
- ・習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん
- ・外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

## 「お互いさまの関係づくり」

私の好きな小説の中に次のような一節があります。  
「生きてる限りはな、迷惑かけるんがん、びびってちゃだめら。」

主人公の喜久子は小学5年生で、血のつながらない母親と二人暮らし。深い愛情で育てられていますが、どこか大人を冷めた目で見ている、周りに遠慮し、迷惑をかけないように気遣っています。それゆえに盲腸による腹痛を誰にも訴えられず、倒れて入院します。

冒頭は、母親が働く焼肉屋の主人サッサンが、病室で腹痛を我慢していた喜久子を叱っている場面です。子供にかけられた言葉ですが、大人にも同じことが言えるのではないのでしょうか。一人で抱え込まずに、困った時は遠慮せずに甘えて頼ってほしいことを。

近頃、気の合う小さなコミュニティの中で人間関係が完結していると感じることがあります。知らない人

の輪の中に入ることは、時として勇気がいることかもしれない。しかし、いろんな人と関わっていると、我が子の様子を客観的に教わり、親が知らない子供の新たな一面に気付かされます。

よその子に関わり見守ることは、間接的に我が子を見守る目を増やし、子供の安全や子育てのしやすさにつながると思います。多様なコミュニティの輪を広げることで「お互いさま」と言える温かい関係をいくつも築くことができるのではないのでしょうか。

※ここでの小説は、「漁港の肉子ちゃん」西 加奈子著 幻冬舎です。

なかの むつこ  
**中野 睦子**

前西宮市PTA協議会会長

平成29年度まで8年間、西宮市PTA協議会で市内の公立幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校のPTA活動を支援。平成28～29年度の2年間、会長を務める。現在、兵庫県PTA協議会の日本PTA全国研究大会兵庫大会実行委員。

## にしのみや人権フォーラム「気づきでひろがるこころの輪！」講演会のご案内

### 「思春期の危機を乗り越えるために」

家庭教育講演会は、女性ライフサイクル研究所フェリアン副所長の津村薫さんをお迎えして思春期についてご講演いただきます。津村さんは、ストレスや人間関係、子育て支援など、様々なテーマで講演・研修を行ってられます。

思春期の子育てに悩みを抱えている方、また、漠然と不安を抱えている方は多いのではないのでしょうか？思春期は親子にとって非常に難しい時期です。

しかし、この危機を乗り越えることで親も子もグツグツいい関係になります。

思春期というピンチをチャンスに変えるヒントを学びましょう！

■日 時 平成30年12月7日(金) 10:00～11:40

■場 所 西宮市立中央公民館 講堂  
(プレラにしのみや 6階)

■講 師 津村 薫さん  
(女性ライフサイクル研究所フェリアン)

### 「笑顔で変わる前向き介護

#### ～介護の達人は人生の達人～

フリーアナウンサーで介護番組司会者の小谷あゆみさんをお迎えして介護についての講演会を開催します。小谷さんは石川テレビのアナウンサーを経てフリーアナウンサーに、現在、NHK Eテレ「ハートネットTV・介護百人一首」で家族の介護、前向きな介護をテーマに司会を続けておられます。そんな介護番組14年の経験から、介護する人も、介護される人も自分らしくイキイキする人生のヒント、暮らしの中の小さな喜び、笑い、幸せの見つけ方等、介護を前向きにとらえる考え方について語っていただきます。

■日 時 平成30年12月8日(土) 13:30～15:00

■場 所 プレラホール (定員300名)

■講 師 小谷 あゆみさん  
(フリーアナウンサー 介護番組司会者)

上記のお申込みは11月14日(水)より社会教育課まで。

TEL 0798-35-3868

E-mail vo\_k\_shakyo@nishi.or.jp

\* 託児 (要申込/先着10名) もあります。

上記のお問合せは、人権教育推進課まで。

TEL 0798-35-3892

E-mail vo\_k\_jinken@nishi.or.jp

※「笑顔で変わる前向き介護～介護の達人は人生の達人」の申込方法など詳細は、10月下旬頃、市ホームページ等でお知らせします。